

特別支援学級 特別の教科 道徳学習指導案

1 主題名 「私たちは多くの動植物の生命をいただいて生きている」(D生命の尊さ)

2 目 標

児童A 1年	命ある魚を食べている自分の命は、大切なものと気付くことができる。
児童B 4年	魚にも命があることを改めて感じ、自分の命は大切にすべきだと気付くことができる。
児童C 5年	魚にも命があることを改めて感じ、その命をもらって自分の命につながっているありがたさに気付くことができる。
児童D 5年	魚にも命があることを改めて感じ、その命をもらって自分の命につながっているありがたさに気付くことができる。
児童E 6年	魚にも命があることを改めて感じ、その命をもらって自分の命につながっているありがたさに気付くことができる。
児童F 1年	命ある魚を食べている自分の命は、大切にすべきだと気付くことができる。
児童G 2年	命ある魚を食べている自分の命は、大切にすべきだと気付くことができる。

3 授業計画

【学習前の児童の姿】

9月に「うまれたてのいのち」(生きる力1年)を学習し、カタツムリや松の芽も命があると気づき、命あるものに、「やさしくしたい」「かわいがる」と感想をもった。本時では、普段食べているものも命で、命をいただいて自分の命があることに気づき、生命の尊さを考える機会としたい。

〈こんな教材の魅力を〉【1時間完了】

・命の躍動感を感じる教材として、生きたマスを用意する。観察することで、魚の美しさや呼吸の様子を見つけたり、触ってみれば、逃れようとする激しい動きから命を感じたりできるだろう。命を感じた後、食につなげれば、命を受け取った自分の命も大切にしたい気持ちに結び付けることができる。

〈こんな手だてで〉

・ガラスの水槽で魚を観察する。つぶやいた言葉を文字に起こして板書することで、感じたことを意識できるようにする。
・「いただきます」という言葉についても考える時間を取り、命をいただいていると思うきっかけになるようにする。

【学習後の児童に期待する姿】

- ・食べ物は食べ物となる前に命ある生き物だったこと、命をいただいているありがたさに気付く。
- ・他の命をもらって生かされている自分の命を大切にしようと思う。

4 本時の指導

(1) 指導の構想

まず、命とはどんなものか問う。命は大事なものの、大切にしなければならないものだということは分かっている。生きている魚という魅力ある教材から、生き生きとした動きや体の美しさなどを見て取ることで「生」の時間をもつことができるだろう。次に、この魚は人が食べるために養殖された魚であり、誰かが食べることを伝える。そして、捕食者である私たちは、魚の命をどう扱うとよいのかを考えさせる。「いただきます」という言葉は何をいただくのか、命をいただいた自分の命はどうするべきか、児童に応じて考えを深めさせたい。小さな生き物から魚が育ち、その命を自分がいただく。もっと広く見れば、魚も鳥も豚も野菜も米も命で、たくさんの命をいただいて自分がある。だからこそ、命は大切ですばらしいものだと思えるとよい。

(2) 準 備 (教師) 水槽、魚、魚や焼き魚の写真

(3) 学習過程 ※T2は児童Aに写真やイラストを個別に見せるなどして内容に気が向くようにする。

学習活動（時間）	予想される児童の反応							※教師の支援
1 命とはどんなものか問う。 （3）	児童A	児童B	児童C	児童D	児童E	児童F	児童G	※友達と同じでよいと伝え、安心して発言できるようにする。
	めあて 命とはどんなものか考えよう。							
	・だいじ。	・大事。	・大事。	・大事。	・大事。	・一つだけ。	・大事。	
2 生きている魚を観察して命を感じる。 （15） ・泳ぐマスの写真	魚を見て、命について考えよう。							※魚には命があり、美しく、元気に動いていることに着目できるように促す。
	・きれいだね！	・きれい。	・本当だ。パクパクしている。	・マスだ！川魚だね。先生が釣ってきた？	・この魚は食べるの？	・魚だ！すごい。	・口が動いている。	
3 命がある魚を食べることについて考える。 （5） ・焼き魚の写真 ・食べ散らかした写真	この魚は人が食べるために育てられた魚です。この魚の命をどうしたらいいと思う？							※「かわいそう」という意見に傾き過ぎないように、育てた野菜の調理を想起させたり、調理された魚や食べ散らかした魚の写真を見せたりすることで、命をいただくことをイメージしやすくする。
	※英語と短い日本語で個別に伝える。 ・No. Don't eat.	※同じ意見の言葉を選べるように、選択肢を示す。 ・かわいそう。 ・残さず食べる。	・かわいそう。 ・ぼくも残さず食べる。	・命を食べちゃうから、残さず食べる。ありがとう、って言う。	・魚は骨が嫌だ。でも命だから、残さず食べる。	・かわいそうだから、飼いたい。 ・料理になったら大事に食べる。	※同じ意見の言葉を選べるように、選択肢を示す。 ・かわいそうだけど食べる。	
4 魚の命をいただく自分の命にフォーカスし、改めて命とはどんなものか問う。 （12）	魚の命をいただく自分の命。命ってどんなもの？							※「いただきます」という言葉の意味を問うことで、考えを言葉にしやすくする。
	※Life is と板書するなどして、友達の意見が伝わるようにする。	・命をいただきます。	・いただきますは命をいただきます、だと思う。	・魚だけじゃなくて豚や牛の命ももらっている。だから命は大事。	・とても大事。命をもらっているから。	・魚は小さい生き物の命も食べてるよ。命をもらって、命は生きている。	・命をもらっているから大事。	
5 振り返り （10）	この時間で分かったことや、これからどうしたいかななどを発表しよう。							※初めよりも考えが深まったことを板書に示し、児童を認める。
	・Life is precious.	・いただきますの意味が分かった。	・命が大事な理由が分かった。	・命が大事なものは、たくさんの命をもらっているからだと分かった。	・命が大事な理由が分かった。	・いただきますは命をいただくことだから大事に食べたと思った。	・いただきますの意味が分かった。	

(4) 評 価

児童A 1年	魚の命を感じ、その命をいただいている自分の命は、大切なものだと気付くことができたか。(発言)
児童B 4年	魚にも命があることを改めて感じ、その命をいただいている自分の命は大切にすべきだと気付くことができたか。(発言)
児童C 5年	魚にも命があることを改めて感じ、その命をもらって自分の命につながっているありがたさに気付くことができたか。(発言)
児童D 5年	魚や植物、動物にも命があることを改めて感じ、その命をもらって自分の命につながっているありがたさに気付くことができたか。(発言)
児童E 6年	魚や植物、動物にも命があることを改めて感じ、その命をもらって自分の命につながっているありがたさに気付くことができたか。(発言)
児童F 1年	魚の命を感じ、その命をいただいている自分の命は、大切にすべきだと気付くことができたか。(発言)
児童G 2年	魚の命を感じ、その命をいただいている自分の命は、大切にすべきだと気付くことができたか。(発言)